

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第15号 —

令和2年2月20日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048(946)2200(代)

ホームページ [草加市立病院](http://www.soka-city-hospital.jp) 検索

<http://www.soka-city-hospital.jp>

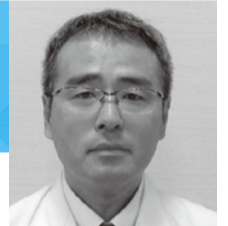
～診断から緩和ケアまで～ 地域で完結するがん診療をめざして

我が国では悪性腫瘍(がん)は1981年(昭和56)に死因の第1位となって以来、一貫して増加傾向です。がんの平均発症年齢は65歳を越え、がんで亡くなる人の85%は65歳以上です。つまり、がんは高齢者の慢性疾患であるということになります。当院でも毎年約1,000人のがん患者さんが新たに登録されており、今後も高齢者人口の増加と共にがんの罹患率は増加すると予想されています。もちろん、がん診療では早期発見、早期治療が重要です。草加・八潮医師会では、2019年度より『胃がん内視鏡健診』を始めました。一方、2007年のがん対策基本法が制定され『早期からの緩和ケア』、治す医療と支える医療の併用の有用性が示されています。当院では2019年10月に緩和ケア専任の医師を迎え、緩和ケア病棟の開棟に向けて準備中です。今号では近年の緩和ケアについての考え方をご紹介しますと思います。併せて2018年に再開した耳鼻咽喉科で担当している頭頸部領域のがんと、女性がかかる最多のがんである乳がんの診療についてもご紹介します。



病院長 矢内 常人

緩和ケアについて



緩和ケア科 診療科長 鈴木 友宜

はじめに

皆さんは、緩和ケアにどんなイメージをお持ちですか？

十分に理解されているという方もおられると思いますが、一方でがんが進行した時に受けるものだから知りたくもないとお考えの方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれません。

何となくつらさを和らげるのかなど想像はつくけど、実際はどういうことなのか分からない方も多いのではないのでしょうか。

今回は、緩和ケアについて説明させていただき、さらに草加市立病院に新しくできた緩和ケアの体制についても紹介させていただきます。

緩和されるべきつらさ

患者さんやご家族はどんなつらさに直面するのでしょうか。

つらさ自体は、ひとりひとり違いますし、また病状によっても変わると思います。

がん患者さんを例としてあげると、がんによる痛みなどの症状ばかりではなく、がんと診断されたときのショックや気持ちのつらさ、抗がん剤の副作用や手術などの治療に伴う痛みやつらさ、また再発や転移がわかったときは、不安やうつ状態が現れるかもしれません。

さらに、仕事の問題や経済的な問題、家族関係の問題も起こりえます。

このように、決して進行した状態だからつらさが大きいわけではなく、診断された時から様々なつらさを感じる可能性があります。

今までのがん医療の考え方では、がんを治すということに関心が向けられ、病院でもこれらのつらさに対して、十分な対応ができていませんでした。

しかし、最近では、患者さんがどのように生活していくのかという療養生活の質も、がんを治すことと同じように大切に考えられるようになってきています。

緩和ケアとは

がんの治療とともに、患者さんやご家族の生活の質の向上が求められるなか広がってきたのが緩和ケアです。

『緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族ひとりひとりの身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアである』とされ、さらに短く一言で表すと、『病気に伴う心と体の痛みを和らげること』となりますが、いずれも世界保健機関が2002年に発表した緩和ケアの定義がもとになっています。

その定義では、病気の時期を問わず、がんばかりでなく、命を脅かす病気によるつらさに直面している患者さん本人とそのご家族に対して、そのつらさを少しでも和らげることで、日常生活をもっと楽にすごしてもらえることを目的とすることが記されています。

患者さんを、がんの患者さんと病気の側からとらえるのではなく、その人らしさを大切にし、身体的・精神的・社会的・スピリチュアル(霊的)な苦痛を全人的苦痛ととらえて、早期よりつらさを和らげる医療やケアを積極的に行うことで、患者さんやご家族の療養生活の質をよりよいものにしていくことができると考えています。

当院における緩和ケア

当院では、2019年10月より緩和ケア科を開設し、外来・入院患者さんの症状緩和に努めています。

緩和ケア外来では、2020年1月現在、当院かかりつけの患者さんのみを対象としていますが、主治医と連携をとりながら、がんに伴う痛みや不安などの苦痛症状の緩和を行っています。

木曜日を除く平日の午後に診療を行っていますが、患者さんの利便性にも配慮し、主治医の外来終了後、午後までお待たせせずに、すぐに診療する体制をとっています。

入院中の患者さんには、緩和ケア科医師・緩和ケア認定看護師・薬剤師などからなる緩和ケアチームで対応しています。

緩和ケアチームは、からだやこころのつらさを緩和する方法を、担当医や担当看護師と一緒に考えるチームで、その方らしい療養生活を支援することを目的としています。

緩和ケアチームのサポートが必要だと

担当医や担当看護師などが判断した時、または、ご本人やご家族からの希望があった時に、緩和ケアチームへの依頼が出され、病棟で診察をします。診察結果を踏まえて、担当医や担当看護師と相談の上、薬やケアの方法など調整するサポートをしていきます。

また、病気の進行によって生じる様々なつらさを和らげるための治療とケアを提供する専門の病棟として、緩和ケア病棟の開棟に向けて準備を進めています。

おわりに

がんのような身体や気持ちのつらさをもたらす病気になったとしても、市民の皆様が安心して過ごしていただけるように、院内はもとより、地域病院・診療所・訪問診療の先生方、訪問看護師さん、介護スタッフさん、薬剤師さん、ケアマネージャーさんなどと、密な連携を図りながら、つらさを少しでも和らげていければと考えています。これから何とぞよろしく願いいたします。

